

平成25年度

公立大学法人大阪市立大学の業務実績に関する評価結果  
( 年 度 評 価 )

平成26年 9 月

大阪市公立大学法人評価委員会

## 目 次

評価にあたって	1
大阪市公立大学法人評価委員会名簿	1
項目別評価の基準	2
全体的評価	3
項目別評価	6
1 教育研究等の質の向上を達成するための措置	6
( 1 ) 教育に関する措置	6
( 2 ) 研究に関する措置	6
( 3 ) 社会貢献に関する措置	7
( 4 ) 国際化に関する措置	8
( 5 ) 附属病院に関する措置	8
2 業務運営の改善及び効率化に関する措置	9
3 財務内容の改善に関する措置	10
4 自己点検及び評価並びに情報公開等に関する措置	10
5 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置	11

## 評価にあたって

大阪市公立大学法人評価委員会は、地方独立行政法人法第28条の規定により、次のとおり、平成25年度の公立大学法人大阪市立大学の業務実績について評価を行いました。

評価については、法人の自律性、大学の教育・研究の特性に配慮しながら、法人から提出された業務実績報告書、関係資料の点検やヒアリング等に基づき、中期目標の達成に向けた中期計画の進行状況を確認するとともに、理事長兼学長より法人としての考え方をお聴きしました。

第二期中期目標期間に入り、法人の業務運営状況をわかりやすく社会に示すとともに、法人運営の改善・向上に資するよう、大項目評価に段階別評価を追加し、総合的・客観的評価に努めました。

### 大阪市公立大学法人評価委員会名簿

	氏 名	役 職 等
委 員 長	楠本 正一	大阪大学名誉教授
委 員 長 職務代理者	堀 正二	大阪府立成人病センター 名誉総長
委 員	種田 ゆみこ	公認会計士
	喜多 裕一	株式会社日本触媒顧問 神戸大学大学院工学研究科特命教授
	桑原 秀史	関西学院大学経済学部 教授
	竹村 登茂子	(株)読売新聞大阪本社 文化・生活部長
	宮本 又郎	大阪大学名誉教授

## 項目別評価の基準

### 大項目評価

- S 中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある  
( 評価委員会が特に認める場合 )
- A 中期計画の達成に向けて順調に進捗している  
( すべて または )
- B 中期計画の達成に向けておおむね順調に進捗している  
( または の割合が9割以上 )
- C 中期計画の達成に向けてはやや遅れている  
( または の割合が9割未満 )
- D 中期計画の達成のためには重大な改善事項がある  
( 評価委員会が特に認める場合 )

( ) の判断基準は目安であり、法人の諸事情を勘案し、総合的に判断する。  
法人が重点的に取り組んでいる事項にかかわる取組を考慮する。

### 小項目別評価

- 年度計画が特に進捗している
- ・達成度が計画を大幅に上回る場合
- ・当該年度中に予定より早期に実施した場合
- 年度計画が進捗している
- ・達成度が計画どおりと認められる場合
- ・当該年度中に実施した場合
- 年度計画がおおむね進捗している
- ・達成度がやや下回るもののおおむね計画どおりと認められる場合
- ・実施が翌年度の第1四半期にずれ込むが確実な実施が見込める場合  
( 次年度の年度計画に影響しない場合に限る )
- 年度計画の実施にあたって課題がある
- ・達成度が計画より大幅に下回る場合
- ・当該年度中に実施できなかった場合
- ・計画設定そのものに問題がある場合

## 全体的評価

平成25年度業務実績に係る項目別評価の主な取組事項は次章に掲げるとおりであるが、大項目5項目のうち、A評価（順調に進捗している）が2項目、B評価（おおむね順調に進捗している）が3項目で、中期計画は、全体としておおむね順調に進捗していると認められる。

引き続きガバナンス強化を図りながら、教育研究のさらなる発展のため、戦略的な法人・大学運営を行い、中期目標の達成に向けての取組を推進されることを期待する。

### <重点的取組事項について>

法人においては、第二期中期計画を策定する際に、重点三戦略として 都市大阪のシンクタンク、「都市科学」分野の教育・研究・社会貢献、専門性の高い社会人の育成、国際力の強化を掲げて、第一期中期目標期間で築いた基礎を発展させる取組を行っている。評価委員会としてもそれぞれの取組に注目し、平成25年度業務実績における重点三戦略の取組のうち、次の点を特筆する。

都市大阪のシンクタンク、「都市科学」分野の教育・研究・社会貢献

- ・人工光合成研究センターおよび健康科学イノベーションセンターを開所した。
- ・「次世代水素エネルギー社会の実現」拠点として、文部科学省「センターオブイノベーション<sup>1</sup>（COI）プログラム」のCOI-T（トライアル）として採択された。
- ・文部科学省の「地（知）の拠点整備事業（大学COC）<sup>2</sup>」に、大阪府立大学と共同申請し、採択された。
- ・所属部署の枠組みを超え、教育・研究・地域貢献など分野横断的に事業を推進できるようプロジェクトマネジメントオフィス（PMO）を設置した。
- ・住吉区役所、住之江区役所、西成区役所と連携協定を締結し、地域防災をテーマとした公開討論会や、「西成情報アーカイブ」企画運営事業を受託するなど連携事業に取り組んだ。

専門性の高い社会人の育成

- ・文部科学省「博士課程教育リーディングプログラム」に大阪府立大学と共同で実施する「システム発想型物質科学リーダー養成学位プログラム」が採択された。
- ・文部科学省の科学技術人材育成補助事業である「テニュアトラック<sup>3</sup>普及・定着事

<sup>1</sup> センターオブイノベーション：現在潜在している将来社会のニーズから導き出されるあるべき社会の姿、暮らしのあり方（ビジョン）を設定し、このビジョンを基に10年後を見通した革新的な研究開発課題を特定した上で、既存分野・組織の壁を取り払い、企業だけでは実現できない革新的なイノベーションを産学連携で実現するための拠点。

<sup>2</sup> 地（知）の拠点整備事業（大学COC）：大学等が自治体と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める大学を支援することで、課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を図ることを目的としている。

<sup>3</sup> テニュアトラック制：公正で透明性の高い選考により採用された若手研究者が、審査を経てより安

業」および「女性研究者研究活動支援事業」に採択された。

#### 国際力の強化

- ・高い英語力を有する学生を対象としたグローバルコミュニケーションコース（GCC）の試行実施を開始し、実践力を発揮する場として、GCC専用設置したビクトリア大学への短期語学研修を実施した。
- ・留学生と日本人学生の交流を推進するため、学生ボランティアグループ「OCUグローバルメンバーズ」を組織し、留学生との交流行事などを企画運営した。

#### < 重点的取組事項以外の主要な取組について >

理事長兼学長のリーダーシップのもと、戦略的で一体的な大学運営による新しい公立大学の実現を目指す「大阪市立大学 大学改革プラン」を策定した。

学生生活実態調査を実施し、報告書を作成するとともに、「学生サポートネットの構築（提言）」をふまえ、「学生なんでも相談窓口」を暫定設置し、学生サポートセンターの機能充実を図った。

昨年度に引き続き、4,000人規模の防災訓練を実施した。若手職員で構成するワーキンググループにて、発災後一定時間経過後までをふくめた大阪市立大学災害対策マニュアルを作成し、全教職員に周知した。また幹部職員を中心に、災害対策シミュレーション訓練を実施した。

#### < 前年度評価委員会における主な指摘事項について >

前年度の主な指摘事項について、次のとおり確認した。

国際学術交流協定校との単位互換制度やダブルディグリー制度<sup>4</sup>、認定留学制度についての検討を行い、学生の海外留学を促進する環境整備に取り組んだ。

理事長兼学長のガバナンス強化のため、研究科長の選考方法の見直しを行い、学長と研究科長の連携強化を図った。

#### < 主な指摘事項等 >

大学を取り巻く厳しい社会経済状況の中にあって、以上のとおり中期計画に沿った取組を着実に推進している。特に重点三戦略の進捗については評価に値するが、引き続き積極的な取組を要する点は次のとおりである。

年度計画における達成水準については、定量化が進められている一方で、形式的になる恐れのあるものも見受けられる。定量化が難しい項目もあるが、より実質的な

---

定的な職を得る前に、任期付の雇用形態で自立した研究者として経験を積むことができる仕組み。

<sup>4</sup> ダブルディグリー制度：我が国と外国の大学が、教育課程の実施や単位互換等について協議し、双方の大学がそれぞれ学位を授与する。

達成水準となるよう改善されたい。また設定された数値目標についても、常に検証を行い、適正な目標となるよう努められたい。

学生サポート体制について、「なんでも相談窓口」の設置やサポートセンターの環境整備などに取り組んでいるが、学生ボランティア団体などを積極的に活用し、より正確に学生ニーズを把握しながら、引き続き効果的なサポート体制の強化に取り組まれたい。

グローバル人材の育成のために、学生ニーズも考慮しながら、認定留学制度や、国際学術交流協定校との単位互換制度の拡大等を積極的にはかり、引き続き留学を促進する経済的かつ教育的環境を整備する取組に努められたい。

理事長兼学長のリーダーシップによる一体的な大学運営のため「大阪市立大学 大学改革プラン」を策定されたが、ここで掲げられた課題のうち教育組織と教員組織の分離や、教員給与の制度設計についても、確実に実施されたい。

## 項目別評価

### 1 教育研究等の質の向上を達成するための措置

大項目別評価	小項目数	評価	評価	評価	評価
B おおむね順調に進捗	71【40】	5【4】	64【36】	2	0

【 】重点項目の内数

全学的及び各学部・研究科による教育研究等の質の向上に向けた取組が、中期計画の達成に向けておおむね順調に進捗していると認められる。

特に重点三戦略にかかる項目については、大学COCをはじめ文部科学省の各種事業に採択されるなど、取組が進んでいる。

#### (1) 教育に関する措置

##### 主な取組事項

###### 大学院教育

- ・平成 25 年度文部科学省「博士課程教育リーディングプログラム」に大阪府立大学と共同で実施する「システム発想型物質科学リーダー養成学位プログラム」が採択された。

###### 学生サポートセンターの機能充実

- ・学生生活実態調査を実施し、報告書を作成するとともに、「学生サポートネットの構築（提言）」をふまえ、「学生なんでも相談窓口」を暫定設置し、学生サポートセンターの機能充実を図った。

##### 意見・指摘事項

###### 学生への経済的支援

- ・現行の授業料減免制度の見直しを含め、アドミッションポリシーおよび設立理念等に即した支援制度となるよう、引き続き検討を進められたい。

#### (2) 研究に関する措置

##### 主な取組事項

###### 都市科学分野での研究

- ・人工光合成研究センターおよび健康科学イノベーションセンターを開所した。



- ・「次世代水素エネルギー社会の実現」拠点として、文部科学省「センターオブイノベーション（COI）プログラム」のCOI-T（トライアル）として採択された。

#### 研究者支援

- ・文部科学省「テニュアトラック普及・定着事業」および「女性研究者研究活動支援事業」に採択された。

#### 意見・指摘事項

##### 研究支援体制

- ・戦略的研究経費、学長裁量経費などにより優れた研究を重点的に支援する体制は構築されている。研究期間終了後においてもその成果等について検証を行い、制度がより効果的なものになるよう努められたい。

### （３）社会貢献に関する措置

#### 主な取組事項

##### 地域連携センターでの取組

- ・文部科学省の「地（知）の拠点整備事業（大学COC）」に、大阪府立大学と共同申請し、採択された。
- ・住吉区役所、住之江区役所、西成区役所と連携協定を締結し、地域防災をテーマとした公開討論会や、「西成情報アーカイブ」企画運営事業を受託するなど連携事業に取り組んだ。

##### 都市健康・スポーツ研究センターでの取組

- ・都市健康・スポーツ研究センターにおいて、新たに住吉区スポーツセンターと連携して公開講座を企画・開講し、市民の健康保持・増進とスポーツ振興を支援するため、産官との連携を推進した。

#### 意見・指摘事項

##### 知的財産の充実と活用

- ・国内特許出願大学承継件数について、引き続き学内シーズの把握や啓発により増加に努められたい。

#### ( 4 ) 国際化に関する措置

##### 主な取組事項

###### グローバル人材の育成

- ・ 高い英語力を有する学生を対象としたグローバルコミュニケーションコース（GCC）の試行実施を開始し、実践力を発揮する場として、GCC専用設置したビクトリア大学への短期語学研修を実施した。
- ・ 留学生と日本人学生の交流を推進するため、学生ボランティアグループ「OCUグローバルメンバーズ」を組織し、留学生との交流行事などを企画運営した。

##### 意見・指摘事項

###### 海外への広報活動

- ・ 海外からの研究者招聘など、研究者や学生の双方向の国際交流推進のためにも、海外への広報活動に積極的に取り組まれない。

###### 学生の海外留学支援

- ・ グローバル人材の育成のためグローバルコミュニケーションコースの試行実施や留学生と日本人学生の交流などに取り組んでいることは評価できる。学生ニーズも考慮しながら、認定留学制度や、国際学術交流協定校との単位互換制度の拡大等を積極的にはかり、引き続き留学を促進する経済的かつ教育的環境を整備する取組に努められたい。

#### ( 5 ) 附属病院に関する措置

##### 主な取組事項

###### 市民への健康支援

- ・ 先端予防医療センター・先端予防医療部附属クリニックMedCity21の開設準備、市民向け公開講座を実施した。

###### 医療機能の充実

- ・ 外科的治療とカテーテル的治療が同時に行えるハイブリッド手術室システムを導入するなど、医療機能の充実を図った。

##### 意見・指摘事項

###### ◆ 病床利用率の向上

- ・ 病院経営改善に一定の成果が得られているが、引き続き病床利用率の向上などに取り組まれない。

## 2 業務運営の改善及び効率化に関する措置

大項目別評価	小項目数	評価	評価	評価	評価
B おおむね順調に進捗	15	0	13	2	0

業務運営の改善及び効率化に関する取組については、中期計画の達成に向けておおむね順調に進捗していると認められる。

小項目評価の集計を判断基準にあてはめると C (やや遅れている) 評価となるが、大項目の実績全体を総合的に判断し、B (おおむね順調に進捗) 評価とする。

### 主な取組事項

学長のガバナンス強化のための体制

- ・学長直轄組織である大学改革室を設置し、また大学改革を担当する学長特別補佐を任命するなど理事長兼学長のガバナンス強化のため組織体制を構築した。
- ・研究科長選考方法の見直しを行い、学長による研究科長選考制度を確立した。
- ・理事長兼学長のリーダーシップのもと、戦略的で一体的な大学運営による新しい公立大学の実現を目指す「大阪市立大学 大学改革プラン」を策定した。

### 意見・指摘事項

人事・給与制度

- ・教員の給与制度について、若年層への処遇改善は一定程度行われたが、引き続き教職員のモチベーションにつながるような制度構築に取り組みたい。

柔軟な教育研究体制の構築

- ・大学改革の一つの取組である教育組織と教員組織の分離について、平成27年度実施に向け、着実に検討を進められたい。

### 3 財務内容の改善に関する措置

大項目別評価	小項目数	評価	評価	評価	評価
A 順調に進捗	5	0	5	0	0

科学研究費補助金事業の採択等による外部資金の獲得など、財務内容の改善に関する取組は、中期計画の達成に向けて順調に進捗していると認められる。

#### 主な取組事項

##### 外部資金等の獲得

- ・各種科学研究費補助金事業の採択や、受託研究などによる外部資金の獲得金額が、中期計画での目標金額を上回った。
- ・「はばたけ夢基金」寄付募集について、同窓会報への広告掲載や、広報誌送付時にパンフレットを同封するなど積極的に取組を行った。

#### 意見・指摘事項

##### 外部資金の獲得

- ・目標金額を上回る外部資金を獲得されたことは評価できる。さらなる効率的な財務運営が求められる中、外部資金の獲得は重要であり、外部資金により研究や事業の発展も期待されることから、引き続き各種科学研究費補助金事業の採択や、受託研究等に取り組まれない。

### 4 自己点検及び評価並びに情報公開等に関する措置

大項目別評価	小項目数	評価	評価	評価	評価
B おおむね順調に進捗	7	0	6	1	0

自己点検及び評価並びに情報公開等に関する取組については、中期計画の達成に向けておおむね順調に進捗していると認められる。

小項目評価の集計を判断基準にあてはめると C（やや遅れている）評価となるが、大項目の実績全体を総合的に判断し、B（おおむね順調に進捗）評価とする。

### 主な取組事項

#### 海外への情報発信

- ・ 英語版ホームページに加え、新たに中国語版ホームページを作成した。またFacebookや中国国内向けSNSである新浪微博での情報発信を開始し、ホームページとのリンクも行った。

### 意見・指摘事項

#### 情報システムの統合

- ・ 大阪府立大学との情報システムの統合について、スケジュールの見直しを含め、引き続き検討を進められたい。

## 5 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置

大項目別評価	小項目数	評価	評価	評価	評価
A 順調に進捗	12【2】	1	11【2】	0	0

【 2 】重点項目の内数

その他業務運営に関する重要目標を達成するための取組については、中期計画の達成に向けて順調に進捗していると認められる。

### 主な取組事項

#### 防災対策の充実

- ・ 昨年度に引き続き、4,000人規模の防災訓練を実施した。若手職員で構成するワーキンググループにて、発災後一定時間経過後までをふくめた大阪市立大学災害対策マニュアルを作成し、全教職員に周知した。また幹部職員を中心に、災害対策シミュレーション訓練を実施した。

#### 他大学との連携

- ・ 文部科学省の「地（知）の拠点整備事業（大学COC）」、「博士課程教育リーディングプログラム」に、大阪府立大学と共同申請し、採択された。

### 意見・指摘事項

#### 安全対策について

- ・ 教職員、学生の安全のための防災対策は大きく進んでいる。建物の耐震工事についても、教育研究活動に配慮しながら、計画的に進められたい。

#### 他大学等との連携

- ・「地（知）の拠点整備事業（大学COC）」に共同申請により採択されるなど、大阪府立大学と連携が進んでいる。地域や社会に貢献する拠点として発展するためにも、地域社会や企業、大阪府立大学など他大学とのますますの連携強化に取り組まれない。

#### コンプライアンスの向上

- ・新たに学内および学外に内部通報窓口を設置するとともに、内部通報制度の周知などの取組を行っている。引き続き、懲戒処分に関する指針の整備などによりコンプライアンスの向上に取り組まれない。

平成25年度業務実績報告書における小項目評価集計表

									小項目数	(参考) 対象となる 年度計画No	大項目別 評価
	評価委員会	法人 自己評価	評価委員会	法人 自己評価	評価委員会	法人 自己評価	評価委員会	法人 自己評価			
教育研究等の質の向上を達成するための措置	5[4]	4[3]	64[36]	65[37]	2	2	0	0	71[40]	No.1～60	B
業務運営の改善及び効率化に関する措置	0	0	13	13	2	2	0	0	15	No.61～69	B
財務内容の改善に関する措置	0	0	5	5	0	0	0	0	5	No.70～74	A
自己点検及び評価並びに情報公開等に関する措置	0	0	6	6	1	1	0	0	7	No.75～80	B
その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置	1	1	11[2]	11[2]	0	0	0	0	12[2]	No.81～89	A
合 計	6[4]	5[3]	99[38]	100[39]	5	5	0	0	110[42]		

[ ]重点項目の内数